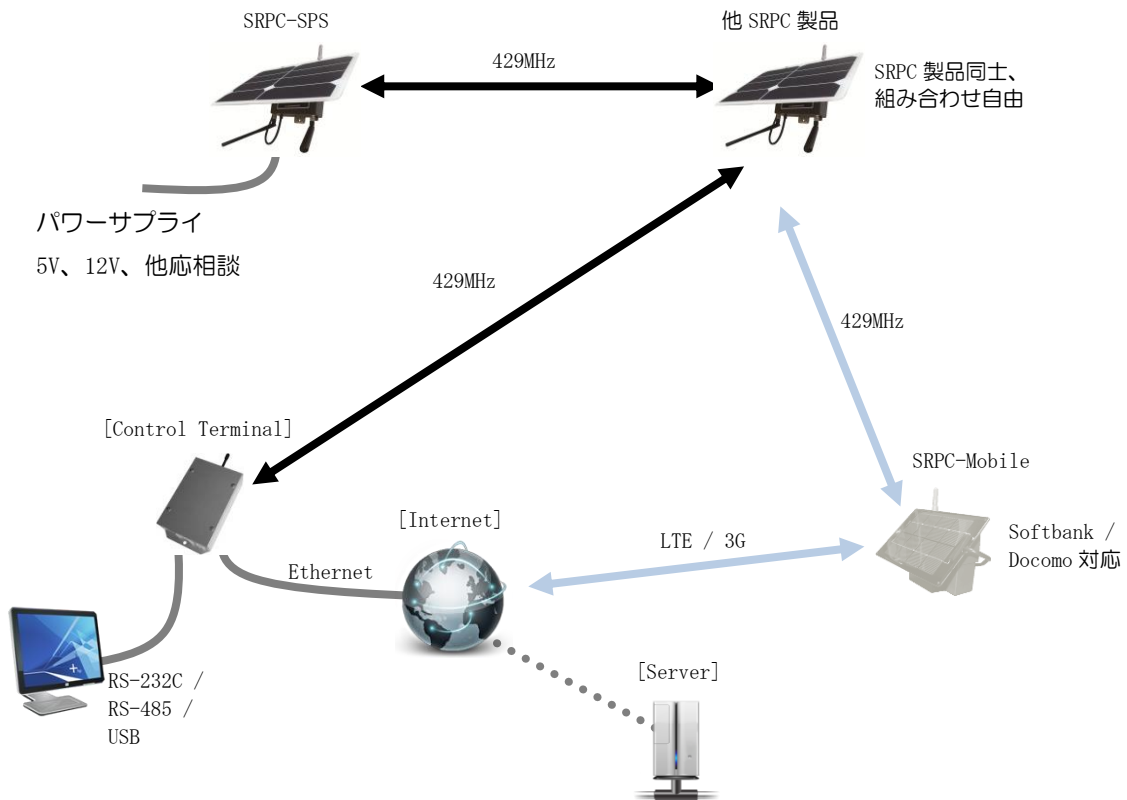


遠隔運用管理ソリューション

パワーサプライ用

SRPC-SPS

野村エンジニアリング

Nomura Engineering Co., Ltd.**Since 1997**

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

野村エンジニアリング株式会社 <http://www.nomura-e.co.jp> e-mail:engineer@nomura-e.co.jp
〒242-0023 神奈川県大和市渋谷1丁目7-2 TEL:046-244-0041 FAX:046-244-3551

Table of contents

コンセプト.....	3
概要.....	3
特徴.....	4
製品構成.....	5
電氣的仕様.....	6
入出力端子の名称及び機能.....	7
ケーブル仕様.....	7
電源の操作.....	8
通信時間.....	9
タイムアウト時間.....	9
設定項目.....	10
チャンネルグループ.....	10
明暗センサ機能.....	10
焦電型赤外線センサ機能.....	10
センサデータの有効期間.....	11
通信距離検査モードの ON/OFF.....	11
スリープモード機能.....	11
オン・オフタイマー機能.....	12
メンテナンスソフト.....	14
動作環境.....	14
ライセンス.....	14
制御方法.....	15
使用する主な TS02EJ mdm4LDM コマンド.....	15
エラーメッセージ.....	17
SRPC の制御コマンド（共通）.....	17
SRPC-SPS の制御コマンド.....	25
SRPC のデータ回収コマンド（共通）.....	28
SRPC-SPS のデータ回収コマンド.....	38
外形寸法図.....	40
電波法に関する注意事項.....	41
取扱に関する注意事項.....	41
変更履歴.....	42

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

コンセプト

自然エネルギーを電源とした従来製品は設置場所や天候に大きく左右されるため、必要以上のマージンを確保した大型製品がほとんどでした。当社はマージンを出来るだけ切り捨て、コンパクトにまとめ、取付けを容易にすることに主眼を置きました。

電源が足りなくても、パラレル接続で容量をアップするなどの対応が可能です

概要

遠隔運用管理ソリューション用の SRPC 製品は、全てパワーサプライ機能が搭載されています。SRPC-SPS は、センサ等を接続せずにパワーサプライ機能のみを利用するための製品になります。

また、オン/オフタイマー機能も搭載されているので、ある時間帯だけ電源を出力することも可能です。オプションの焦電型赤外線センサと明暗センサを組み合わせることで、夜間に人を感知し電源を出力するような玄関ライトのような使い方も可能です。

遠隔運用管理ソリューション用の SRPC は互いに関係性を持ち、子の関係にある SRPC 製品からセンサ情報を受け取り、親の関係にある SRPC 製品に自分と子の両方のセンサ情報を一緒に送信します。この関係性により、枝状に広がる SRPC 製品のセンサ情報を 1カ所に集約しています。

太陽電池システムは、常に最大効率で太陽光発電を行うためにMPPT制御を行っています。バッテリーは、リン酸鉄リチウムイオンを採用することで、大容量の10000mAh。無充電下に置かれても10日半の連続稼働(*1)、電源をOFFにすれば2年以上保管できます。また、ソーラー電圧・バッテリー電圧・充電電流・消費電流・温度・湿度をモニタリングできます(*2)。

無線通信は、429MHz 特定小電力モジュール(TS02EJ-S mdm4LDM)を使用。TS02EJ-S mdm4LDM の通信距離は見通しで約 2~3km ですが、間に SRPC 製品を 1台追加すれば通信距離を倍にできます。また、枝状に分岐することもできます。

*1) 消費電流平均40mAの場合

*2) 温度・湿度のモニタリングはオプションになります

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

特徴

- 大容量 10000mAh のリチウムイオンバッテリー
- 太陽電池システムのソーラー電圧・バッテリー電圧・充電電流・消費電流・温度・湿度を監視可能
(温度・湿度はオプション)
- 無充電下に置かれても10日半の連続稼働が可能 (平均消費電流を 40mA として)
- MPPT 制御による太陽光発電
- 消費電流は平均 40mA (スリープモードが有効の場合、平均 8mA)
- マグネットスイッチによる電源の ON/OFF。電源を OFF すれば2年以上保管可能
- 3チャンネルのマルチチャンネル通信を採用
- 通信距離は見通し 2~3km。SRPC を1台追加するごとに通信距離が倍になります。
- パワーサプライ機能 (3.0V 以下で停止、3.1V 以上で再開)
- 焦電型赤外線センサ (オプション)、オン/オフタイマー、明暗センサ

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications**製品構成**

SRPC-SPS

8.5W Solar Panel
前面

パワーサプライ

8.5W Solar Panel
背面

マグネット

ウォールマウントブラケット（壁取付け用）
ポールマウントブラケット（ポール、電信柱などにくくりつける）
がケース背面に実装されます。

付属品：マグネットスイッチ用のマグネット

設置工事およびメンテナンス費用は含まず
故障時の出張修理無し、センドバックにより修理
予備の保持を推奨

別途、有償対応

取り付けベルト、大口径結束バンド、ポール、ステー、木ネジ、防水コネクタなど

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

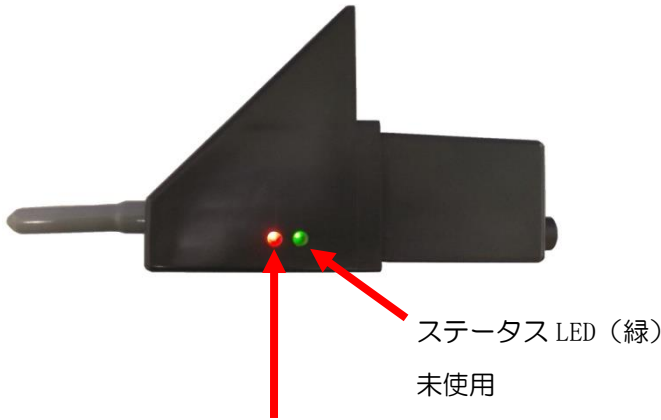
SRPC-SPS Firmware Specifications**電 気 的 仕 様**

無線モジュール	当社 TS02EJ-S mdm4LDM (429MHz 帯 特定小電力無線)
通信距離	見通し 2~3km (TS02EJ-S mdm4LDM の仕様書参照)
温度範囲	-10~60℃ 結露無きこと
消費電流	電源 ON 時： 平均 40mA (通常時) 平均 8mA (スリープ時) 電源 OFF 時： 約 250 μ A
重量	約 1kg (ソーラーパネル、充電池含む)
出力電圧	5V、12V、他応相談 (6W タイプ応相談)
パワーサプライ	3.0V 以下でサプライ停止 3.1V 以上でサプライ再開
太陽電池システム	
太陽パネル	8.5W
充電池	リン酸鉄リチウムイオン (並列 2 本、10000mAh)
最大充電電圧	3.6V
最大充電電流	1600mA または 2000W
過充電保護	電圧・電流・タイマー方式
過放電保護	2.5V 以下でカットオフ
連続稼働時間 (無充電)	250 時間 (消費電流が平均 40mA の場合)
保管日数	2 年以上 (電源 OFF の場合)

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

入出力端子の名称及び機能



ケーブル

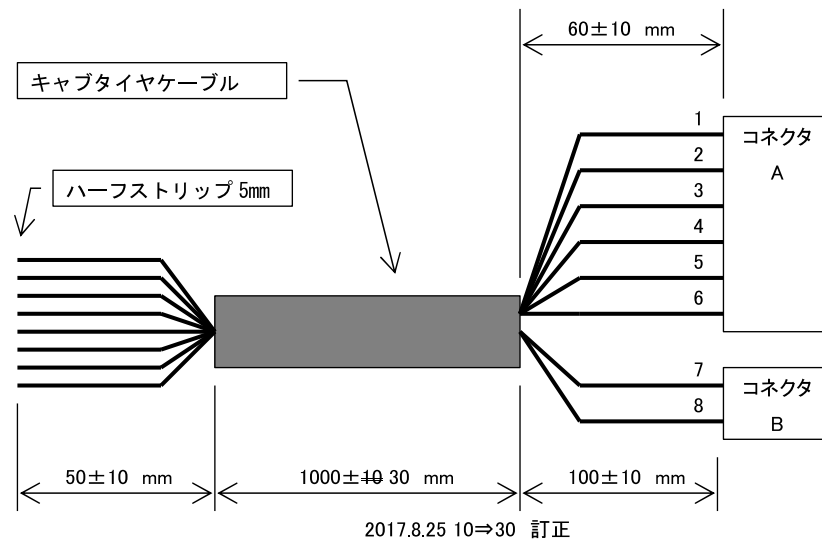
#5 : 電源出力 (5V、12V 応相談)

#6 : GND

ステータス LED (赤)

動作中は、5秒間に1回点灯します。

ケーブル仕様



ケーブル		コネクタA	コネクタB
VCTF-8-0.3SQ (富士電線)		XAP-06V-1 (JST)	XAP-02V-1 (JST)
No.	線色	ピン番	ピン番
1	青	1	-
2	茶	2	-
3	黄	3	-
4	緑	4	-
5	赤	5	-
6	黒	6	-
7	白	-	1
8	グレー	-	2

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

電源の操作



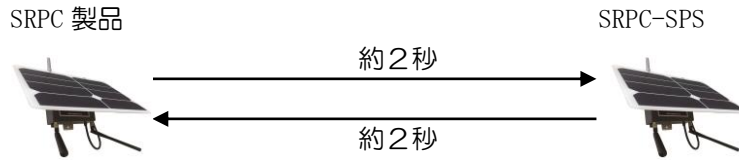
赤枠の位置にマグネットスイッチがあります。
マグネットを近づけるとスイッチが反応します。



スイッチが入るとステータス LED（赤）が点灯します。
点灯したままを5秒間維持すると、LED が5回点滅し、
電源の ON/OFF が切り替わります。
5回点滅後、LED 点灯：電源 ON

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

通信時間



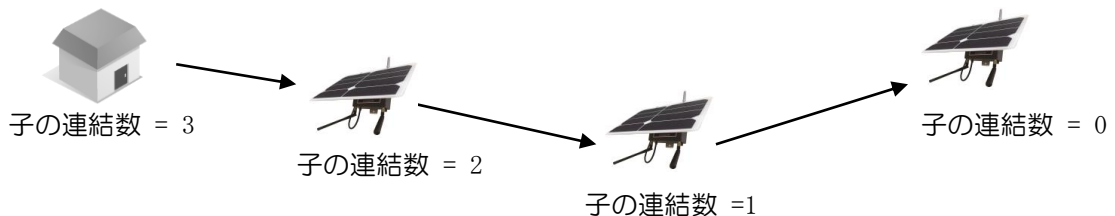
通信時間は、片方向で約2秒かかります。

タイムアウト時間

遠隔運用管理ソリューション用のSRPCは子の関係性にあるSRPC製品にセンサ情報を送信するようリクエストした後、返信が送られるまで待機します。

タイムアウト時間が経過しても、返信を受信できなかった場合、返信が無かったという情報も親のSRPC製品へ伝えます。

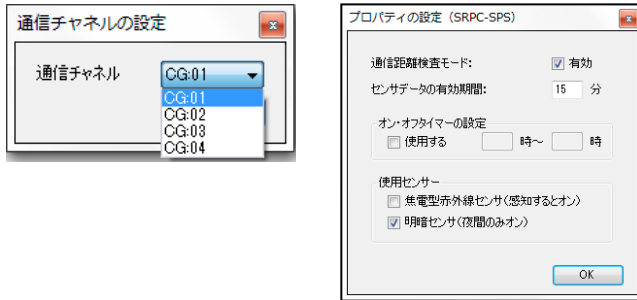
タイムアウト時間 = 子の連結数 × 15秒 になります。



製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

設定項目

各種設定を変更する場合には、制御コマンドを送信して行います。メンテナンスソフトの GUI を利用して、変更することもできます。SRPC-Monitor を使用しても変更することができます。



チャンネルグループ

利用可能な 40 チャンネルは混変調特性などを考慮して 4 つのグループ、3 チャンネルずつに分割されています。同一エリア内で複数セットを使用される場合はできるだけ異なるチャンネルグループを使用して下さい。工場出荷時は、グループ番号 1 になっています。

明暗センサ機能

明暗センサ機能を有効にすると、夜間のみ電源出力を ON にすることができます。工場出荷時は、無効になっています。焦電型赤外線センサと組み合わせると、夜間に人を検知した時のみ電源出力を ON にすることができます。

焦電型赤外線センサ機能

焦電型赤外線センサ機能を有効にすると、人から発生する赤外線を検知した時のみ電源出力を ON にすることができます。焦電型赤外線センサはオプションになりますので、ご注文時に指定してください。工場出荷時は、無効になっています。明暗センサと組み合わせると、夜間に人を検知した時のみ電源出力を ON にすることができます。

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

センサデータの有効期間

センサデータは、制御端末や親 SRPC に回収されるまで本体に保存しています。また、子 SRPC から受け取ったセンサデータも本体に保存しています。通信障害等で送受信出来なくても、保存してあるデータを再送信しています。

あまりにも古いデータを再送信することが無いように、センサデータには有効期間を設けています。この有効期間が経過したセンサデータは、破棄されます。工場出荷時には、15 分になっています。

通信距離検査モードの ON/OFF

通信距離検査モードが有効になっている SRPC-SPS は、データ回収コマンドを受信した際、LED が点灯／点滅／消灯します。工場出荷時には、有効になっています。

5 秒間点灯：通信距離は良好

5 秒間点滅：通信距離は良好（市街地では注意）

5 秒間消灯：通信距離は注意

スリープモード機能

SRPC-SPS を中継機として使用しない場合には、スリープモードを有効にすると本体の消費電流を下げるすることができます。ただし、スリープモードを有効にすると、間欠受信動作（1 分間の内、10 秒間だけ受信）になるため、制御コマンドを送信してもスリープ中の場合には返信がありません。したがって、返信がくるまで連続して制御コマンドを送信してください。SRPC-SPS は制御コマンドを受信すると 10 分間は通常モードになります。工場出荷時は、無効になっています。

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

オン・オフタイマー機能

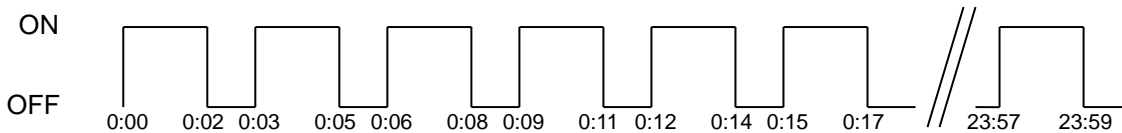
設定した時間範囲の時のみ電源出力を ON にすることができます。工場出荷時は、電源出力は常時 ON になっています。

また、電源出力のパターンも設定することができます。オン・オフタイマー時間内で ON 時間（分）と OFF 時間（分）を繰り返します。工場出荷時は、ON 時間（分）は 1 分、OFF 時間（分）は 0 分になっています。

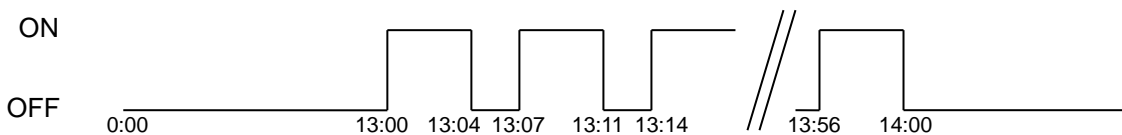
例) オン・オフタイマーを 0 時～0 時、ON 時間を 1 分、OFF 時間を 0 分にすると、
パワーサプライは、常時 ON になります。

また、ON 時間を 0 分、OFF 時間を 1 分にすると、パワーサプライは常時 OFF になります。

ON 時間を 2 分、OFF 時間を 1 分にすると下図のようなスケジュールになります。



オン・オフタイマーを 13 時～14 時、ON 時間を 4 分、OFF 時間を 3 分にすると



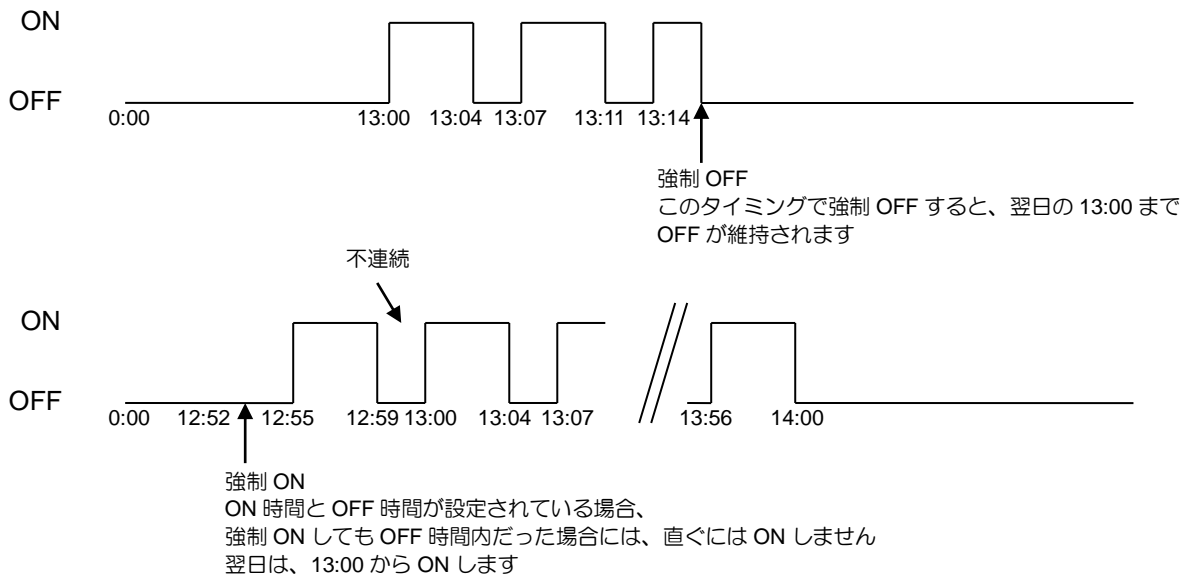
コマンド制御で、強制 ON/OFF を指定できます。オン・オフタイマーを使用していない時には、強制 ON を指示したら、強制 OFF を指示するまでずっと ON が維持されます。

オン・オフタイマーを使用している場合には、オンタイマーの時間もしくはオフタイマーの時間をまたぐと強制が解除され、オン・オフタイマーの制御に戻ります。

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

例) オン・オフタイマーを13時から14時、ON時間を4分、OFF時間が3分の場合



ON時間とOFF時間の繰り返しがおん・オフタイマー時間内で割り切れない場合には、不連続な区間が発生します。不連続な期間はオンタイマー時間の直前で発生します。オン・オフタイマーを使用していない場合には、不連続な区間は0:00の直前で発生します。

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

メンテナンスソフト

使用方法は、メンテナンスソフトのマニュアルを参照して下さい。

動作環境

.Net Framework 4.0以上がインストールされているWindowsパソコン。.Net Frameworkのバージョンの確認方法、アップデート方法等は、Microsoftのホームページを参照して下さい。

ライセンス

ライセンスフリーのオープンソースのソフトになります。再配布・改変等が可能です。

注意！

メンテナンスソフトを使用して、SRPC-SPS を制御するには、別途 TS02EJ mdm4LDM Serial-NALM または SRPC-Gateway 等の制御端末が必要になります。

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

制御方法

SRPC 製品を制御するには、制御コマンドを送信する必要があります。

メンテナンスソフトも TS02EJ-x mdm4LDM モジュールを使用して、制御コマンドを送信しています。

TS02EJ-x mdm4LDM モジュールさえあれば、すべての制御を行うことができます。

使用する主な TS02EJ mdm4LDM コマンド

- ※ <CR>はキャリッジリターンを表しています。
- ※ ^は、以降に続く2文字が16進数を表しています。
- ※ 斜体文字は、モジュールから出力されるメッセージまたは受信データを表しています。
- ※ その他のコマンドについては、モジュールの仕様書を参照して下さい。

● 制御対象の SRPC の ID を設定：#IDmmmm<CR>

mmmm : SRPC の ID

例) #ID1F3F<CR>

中継しなければ届かない距離に設置されている SRPC の ID も指定できます。

● 起点となる SRPC の ID を設定：#DR0000:mmmm<CR>

mmmm : SRPC の ID

例) #DR0000:1F2A<CR>

通信が届く距離に設置されている SRPC の ID を指定します。

● 通信チャンネルグループの設定：#CGnn<CR>

nn : 01~04

例) #CG01<CR> : 通信チャンネルグループを1に設定します。

SRPC と同じ通信チャンネルグループに設定しないと、SRPC を制御できません。

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

● 送信データ長の設定：#LNnnn<CR>

nnn：001～255 固定長指定

送信データのバイト数を1～255バイトで設定します。

例) #LN010<CR> : 送信データ長に10バイトを設定します。

nnn：000 可変長指定（デフォルト）

送信データ入力後、10ms以上経過すると送信を開始します。

SRPCの制御コマンドは、それぞれ送信データ長が違います。固定長指定を使用する場合には、制御コマンドを送信する前に送信データ長の設定を行う必要があります。

● 制御コマンドの送信準備：#TX<CR>

#IDnnnn<CR>で指定したSRPCLに制御コマンドを送信します。制御コマンドはこのステートメントの後に続けて入力します。送信データ長が固定長指定の場合には、指定された送信データ長に達すると送信が開始され、可変長指定の場合には、送信データ入力後、10ms以上経過すると送信が開始されます。

無線送信が開始される直前に\$ok<CR>と出力されます。\$ok<CR>以外のメッセージが出力された場合には無線送信に失敗したことになります。

例) #TX<CR>

xxxx : 送信データ

\$ok<CR> : 無線送信が開始された

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

エラーメッセージ

メッセージ出力の設定を有効に設定している場合、モジュールからは以下のエラーメッセージがあります。

<i>\$cb</i> <CR>	: 無線送信しようとするチャンネルがビジー (チャンネルビジーについては、モジュールの仕様書を参照)
<i>\$Err0</i> <CR>	: コマンドエラー
<i>\$Err1</i> <CR>	: バッファオーバーフロー
<i>\$Err8</i> <CR>	: タイムアウトエラー 各コマンドの文字間、送信データの各バイト間が 180ms 以上経過している
<i>\$Err9</i> <CR>	: その他のエラー

SRPC の制御コマンド (共通)

※ バッテリーがカットオフ電圧以下まで無くなっていると、SRPC は無線機能をOFFにしている
ので制御コマンドを送信しても返信がありません。

● 充電バッテリーの状態を取得: &B1<CR>

返信データ: %Bn<CR>

<u>n</u>	<u>充電バッテリーの状態</u>
0	空 (充電中ではない)
1	通常 (充電中ではない)
2	満タン (充電中ではない)
3	充電中
4	満タン (トリクル充電中) ※ 充電池がエネルギー貯蔵の場合のみ
9	ビジー (別の処理で忙しいため、制御コマンドを無視したことを表します)

例) #TX<CR>	: 制御コマンドの送信準備
&B1<CR>	: 制御コマンドを送信
<i>\$ok</i> <CR>	: 無線送信の開始
%B3<CR>	: 充電バッテリーは “充電中”

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

● 充電バッテリーの電圧を取得：&V1<CR>

返信データ：%Vn<CR>mmm<CR>

n：1なら成功、9ならビジー（制御コマンドを無視したことを表します）

mmm：充電バッテリーの電圧（mV）、ビジーの場合は0000

例) #TX<CR>	: 制御コマンドの送信準備
&V1<CR>	: 制御コマンドを送信
\$ok<CR>	: 無線送信の開始
%V1<CR>3712<CR>	: 充電バッテリーの電圧は “3712mV”

● ソーラーの電圧を取得：&L1<CR>

返信データ：%Ln<CR>mmm<CR>

n：1なら成功、9ならビジー（制御コマンドを無視したことを表します）

mmm：ソーラーの電圧（mV）、ビジーの場合は0000

例) #TX<CR>	: 制御コマンドの送信準備
&L1<CR>	: 制御コマンドを送信
\$ok<CR>	: 無線送信の開始
%L1<CR>4933<CR>	: ソーラーの電圧は “4933mV”

● 充電電流を取得：&I1<CR>

返信データ：%In<CR>mmm<CR>

n：1なら成功、9ならビジー（制御コマンドを無視したことを表します）

mmm：充電電流（mA）、ビジーの場合は0000

例) #TX<CR>	: 制御コマンドの送信準備
&I1<CR>	: 制御コマンドを送信
\$ok<CR>	: 無線送信の開始
%I1<CR>0782<CR>	: 充電電流は “782mA”

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

● 消費電流を取得：&U1<CR>

返信データ：%Un%<CR>mmmm<CR>

n：1なら成功、9ならビジー（制御コマンドを無視したことを表します）

mmmm：消費電流（mA）、ビジーの場合は0000

例) #TX<CR>	：制御コマンドの送信準備
&U1<CR>	：制御コマンドを送信
\$ok<CR>	：無線送信の開始
%U1%<CR>0042<CR>	：消費電流は“42mA”

● ケース内の温度を取得：&O1<CR>

返信データ：%On%<CR>mmmm<CR>

n：1なら成功、9ならビジー（制御コマンドを無視したことを表します）

mmmm 温度（℃）

0℃以上 小数点以下2桁まで（例：2342 → 23.42℃）

0℃未満 先頭に-が付加され、小数点以下1桁まで（例：-024 → -2.4℃）

ビジー 0000

例) #TX<CR>	：制御コマンドの送信準備
&O1<CR>	：制御コマンドの送信
\$ok<CR>	：無線送信の開始
%O1%<CR>0932<CR>	：ケース内の温度は“9.32℃”

● ケース内の湿度を取得：&H1<CR>

返信データ：%Hn%<CR>mmmm<CR>

n：1なら成功、9ならビジー（制御コマンドを無視したことを表します）

mmmm：湿度（%）小数点以下2桁まで、ビジーの場合は0000

例) #TX<CR>	：制御コマンドの送信準備
&H1<CR>	：制御コマンドの送信
\$ok<CR>	：無線送信の開始
%H1%<CR>3282<CR>	：ケース内の湿度は“32.82%”

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

● カレンダーの設定：&W1<CR>0000YYYYMMDDhhmmss<CR>

返信データ：%W1%<CR>

YYYY：2000～2099 西暦

MM：01～12 月

DD：01～31 日

hh：00～23 時間（24h 表記）

mm：00～59 分

ss：00～59 秒

例) #TX<CR>

&W1<CR>000020130822145200<CR>

\$ok<CR>

%W1%<CR>

：制御コマンドの送信準備

：制御コマンドを送信

：2013/08/22 14:52:00

：無線送信の開始

：カレンダーの設定成功

● カレンダーの取得：&R1<CR>

返信データ：%R1%<CR>YYYYMMDDhhmmss<CR>

YYYY：2000～2099 西暦

MM：01～12 月

DD：01～31 日

hh：00～23 時間（24h 表記）

mm：00～59 分

ss：00～59 秒

例) #TX<CR>

&R1<CR>

\$ok<CR>

%R1%<CR>20130822145200<CR>

：制御コマンドの送信準備

：制御コマンドを送信

：無線送信の開始

：カレンダーの日付は、

：2013/08/22 14:52:00

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

● 通信チャンネルグループの変更：&Gx<CR>

返信データ：%G1<CR>

x：1～4

例) #TX<CR>	：制御コマンドの送信準備
&G2<CR>	：制御コマンドを送信（チャンネルグループを2に変更）
\$ok<CR>	：無線送信の開始
%G1<CR>	：通信チャンネルグループの変更に成功
	：変更前の通信チャンネルグループで返ってきます
#CG02<CR>	：成功したら、自分の通信チャンネルグループも変更します

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

- 子の関係にある SRPC を登録：&M1<CR>mmmm<CR>

返信データ：%M1<CR>

mmmm：SRPC の ID

例) #TX<CR>：制御コマンドの送信準備

&M1<CR>100A<CR>：制御コマンドを送信

\$ok<CR>：無線送信の開始

%M1<CR>：登録成功

- 子の関係にある SRPC を取得：&M2<CR>

返信データ：%M2<CR>[mmmm<CR>]…

mmmm：SRPC の ID

例) #TX<CR>：制御コマンドの送信準備

&M2<CR>：制御コマンドを送信

\$ok<CR>：無線送信の開始

%M2<CR>100A<CR>100B<CR>：登録されている ID は、100Ah と 100Bh

- 子の関係にある SRPC の登録を全てクリア：&M0<CR>

返信データ：%M0<CR>

例) #TX<CR>：制御コマンドの送信準備

&M0<CR>：制御コマンドを送信

\$ok<CR>：無線送信の開始

%M0<CR>：クリア成功

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

- 子の連結数を SRPC に設定：&N1&<CR>nn<CR>

返信データ：%N1%<CR>

nn：子の連結数（00～99）

例) #TX<CR>	：制御コマンドの送信準備
&N1&<CR>03<CR>	：制御コマンドを送信（子の連結数は3）
\$ok<CR>	：無線送信の開始
%N1%<CR>	：成功

- SRPC から子の連結数を取得：&N2&<CR>

返信データ：%N2%<CR>nn<CR>

nn：子の連結数（00～99）

例) #TX<CR>	：制御コマンドの送信準備
&N2&<CR>	：制御コマンドを送信
\$ok<CR>	：無線送信の開始
%N2%<CR>03<CR>	：成功（子の連結数は3）

- SRPC の通信距離検査モードの設定：&K1&<CR>n<CR>

返信データ：%K1%<CR>

n：1ならON（工場出荷時デフォルト）、0ならOFF

通信距離検査モードをONにすると、LEDの点灯パターンで設置箇所が適切か判断できるようになります。

例) #TX<CR>	：制御コマンドの送信準備
&K1&<CR>1<CR>	：制御コマンドを送信（通信距離検査モードを有効に）
\$ok<CR>	：無線送信の開始
%K1%<CR>	：成功

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

- SRPC の通信距離検査モードを取得：&K2&<CR>

返信データ：%K2%<CR>n<CR>

n：1ならON、0ならOFF

例) #TX<CR>	：制御コマンドの送信準備
&K2&<CR>	：制御コマンドを送信
\$ok<CR>	：無線送信の開始
%K2%<CR>1<CR>	：成功（通信距離検査モードは有効）

- コマンドの実行要求：&Q0&<CR>[command]

返信データ：%Q1%<CR>[response]

command：TS02EJ-x mdm4LDM のコマンド

response：TS02EJ-x mdm4LDM のコマンドを実行した後のメッセージ

注意！！

#?M<CR>コマンドは使用しないでください。#?M<CR>コマンドを実行した後のメッセージが無線区間で送信できる最大バイト数を超過しているため、途中で切れた response になってしまいます。

例1) #TX<CR>	：制御コマンドの送信準備
&Q0&<CR>#FR1002:0000<CR>	：制御コマンドを送信
\$ok<CR>	：無線送信の開始
%Q1%<CR>	：コマンドの実行成功

例2) #TX<CR>	：制御コマンドの送信準備
&Q0&<CR>aaaa<CR>	：制御コマンドを送信
\$ok<CR>	：無線送信の開始
%Q1%<CR>\$Err0<CR>	：コマンドの実行成功
	：結果はコマンドエラー

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS の制御コマンド

- SRPC-SPS のオン・オフタイマーの設定：&PA&<CR>nmm<CR>

返信データ：%PA%<CR>

nn：パワーサプライ開始時間（00～23）、工場出荷時は 00

mm：パワーサプライ停止時間（00～23）、工場出荷時は 00

nn と mm が同じ場合、パワーサプライは常時 ON になります。

例) #TX<CR> : 制御コマンドの送信準備
&PA&<CR>1706<CR> : 制御コマンドを送信（17:00～06:00）
\$ok<CR> : 無線送信の開始
%PA%<CR> : 設定成功

- SRPC-SPS のオン・オフタイマーの取得：&PB&<CR>

返信データ：%PB%<CR>nmm<CR>

nn：パワーサプライ開始時間（00～23）

mm：パワーサプライ停止時間（00～23）

nn と mm が同じ場合、パワーサプライは常時 ON になります。

例) #TX<CR> : 制御コマンドの送信準備
&PB&<CR> : 制御コマンドを送信
\$ok<CR> : 無線送信の開始
%PB%<CR>1706CR> : 17:00～06:00 間、パワーサプライが有効

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

● SRPC-SPS の ON 時間・OFF 時間の設定：&P2&<CR>nnmm<CR>

返信データ：%P2%<CR>

nn：ON 時間（分）、工場出荷時は 01

mm：OFF 時間（分）、工場出荷時は 00

例) #TX<CR> : 制御コマンドの送信準備
&P2&<CR>0403<CR> : 制御コマンドを送信（ON 時間は 4 分、OFF 時間は 3 分）
\$ok<CR> : 無線送信の開始
%P2%<CR> : 設定成功

● SRPC-SPS の ON 時間・OFF 時間の取得：&P3&<CR>

返信データ：%P3%<CR>nnmm<CR>

nn：ON 時間（分）

mm：OFF 時間（分）

例) #TX<CR> : 制御コマンドの送信準備
&P3&<CR> : 制御コマンドを送信
\$ok<CR> : 無線送信の開始
%P3%<CR>0403CR> : ON 時間は 4 分、OFF 時間は 3 分

● SRPC-SPS のスリープモードの設定：&PC&<CR>n<CR>

返信データ：%PC%<CR>

n：1 ならスリープモード有効、0 ならスリープモード無効

中継ステーションとして運用する場合には、スリープモードは無効にする必要があります。

例) #TX<CR> : 制御コマンドの送信準備
&PC&<CR>1<CR> : 制御コマンドを送信（スリープモード有効）
\$ok<CR> : 無線送信の開始
%PC%<CR> : 成功

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

● SRPC-SPS のスリープモードの取得：&PD<CR>

返信データ：%PD%<CR>n<CR>

n：1ならスリープモード有効、0ならスリープモード無効

例) #TX<CR> : 制御コマンドの送信準備
 &PD<CR> : 制御コマンドを送信
 \$ok<CR> : 無線送信の開始
 %PD%<CR>1CR> : 成功（スリープモードは有効）

● SRPC-SPS のセンサを設定：&P0<CR>n<CR>

返信データ：%P0%<CR>

n：SRPC-SPS に取り付けられているセンサ

7bit	6bit	5bit	4bit	3bit	2bit	1bit	0bit
0	0	0	0	0	0	ifs	dts

ifs： 1の時、焦電型赤外線センサを使用する 0の時は使用しない

dts： 1の時、明暗センサを使用する 0の時は使用しない

例) #TX<CR> : 制御コマンドの送信準備
 &P0<CR>^03<CR> : 制御コマンドを送信
 (焦電型赤外線センサと明暗センサを使用する)
 \$ok<CR> : 無線送信の開始
 %P0%<CR> : 設定成功

● SRPC-SPS のセンサを取得：&P1<CR>

返信データ：%P1%<CR>n<CR>

n：SRPC-SPS に取り付けられているセンサ（詳細は前項を参照）

例) #TX<CR> : 制御コマンドの送信準備
 &P1<CR> : 制御コマンドを送信
 \$ok<CR> : 無線送信の開始
 %P1%<CR>^03<CR> : 成功
 (焦電型赤外線センサと明暗センサを使用する)

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

SRPC のデータ回収コマンド（共通）

データ回収コマンドは、子の関係性にある SRPC に次々に伝わっていき、全ての SRPC からデータを回収します（枝状構成の場合は分割されます）。遠隔運用管理ソリューションの全ての SRPC シリーズと親子関係を結ぶことができます。

制御端末から一番近い SRPC（起点の SRPC）の ID だけ指定すれば、それ以降の全ての SRPC のセンサーデータを回収できます。

SRPC は、途中で通信障害が発生しても、それぞれが持つタイムアウト時間が経過すると、子からの返信待ちをキャンセルして以降の処理を続行します。回収したデータからどの SRPC から返信がないかを判断できます。

● センサデータ回収コマンド：&D(seq)&<CR>

返信データ：

センサデータ STN	センサデータ 1	センサデータ 2	...	センサデータ N	チェックサム
------------	----------	----------	-----	----------	--------

センサデータ STN： %D(seq)%<CR>

seq： 1 バイト シーケンシャル番号（0x01～0xFF）

シーケンシャル番号について

シーケンシャル番号 1 でコマンドを送ると、返信データのシーケンシャル番号も同じく番号 1 で返ってきます。入力したコマンドと同じシーケンシャル番号が返ってきたら、パケットロスが無かったことになるので、次回は 1 加算したシーケンシャル番号でコマンドを入力してください。

もし、何らかの通信障害によって、返信データが返ってこなければ、同じシーケンシャル番号でコマンドを送ります。

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

センサデータ：(format) (srpc_id_h) (srpc_id_l)...

SRPC データのデータバイト数は、SRPC の種類ごとに違います。

format :	1 バイト	フォーマットコード
srpc_id_h :	1 バイト	SRPC の ID (上位 8bit)
srpc_id_l :	1 バイト	SRPC の ID (下位 8bit)

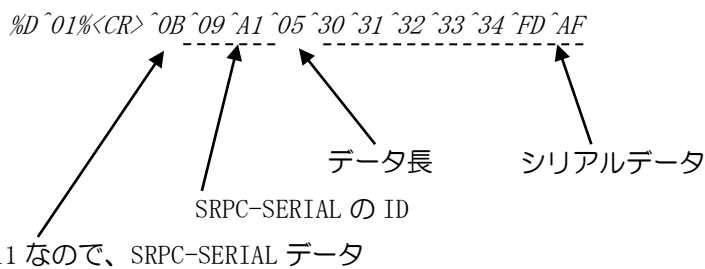
チェックサム：(sum_h) (sum_l)

sum_h :	1 バイト	チェックサム (上位 8bit)
sum_l :	1 バイト	チェックサム (下位 8bit)

チェックサムについて

チェックサムを除く返信データ (%D(seq)%<CR>[(format) (srpc_id_h)…]…) を 1 バイト単位で加算し、17bit 以降は切り捨てした値 (16bit のバイナリー) を論理反転した値

- 例) #TX<CR> : 制御コマンドの送信準備
 &D^01<CR> : センサデータ回収コマンドを送信
 \$ok<CR> : 無線送信の開始



チェックサムの検証

%D^01%<CR>^0B^09^A1^05^30^31^32^33^34 を全てバイナリー表記すると
 ^25^44^01^25^0D^0B^09^A1^05^30^31^32^33^34 になります。

全て加算した結果 (0x0250) を論理反転した 0xFDAF と、最後に付加されている 2 バイトのチェックサムが同じ値かどうかで検証できます。

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

● 消費電流の回収コマンド：&UU<CR>

返信データ：

消費電流 STN	消費電流 1	消費電流 2	...	消費電流 N	チェックサム
----------	--------	--------	-----	--------	--------

消費電流 STN：%UU%<CR>

消費電流：(format) (srpc_id_h) (srpc_id_l) (busy) (curr_h) (curr_l)

format：	1バイト	フォーマットコード（消費電流のデータは、5）
srpc_id_h：	1バイト	SRPC の ID（上位 8bit）
srpc_id_l：	1バイト	SRPC の ID（下位 8bit）
busy：	1バイト	0x00：成功 0x0F：ビジー
curr_h：	1バイト	消費電流[mA]（上位 8bit）
curr_l：	1バイト	消費電流[mA]（下位 8bit）

例) #TX<CR> : 制御コマンドの送信準備
 &UU<CR> : 消費電流の回収コマンドを送信
 \$ok<CR> : 無線送信の開始

%UU%<CR> ^05^08^C4^00^00^31^FD^FC

↑ SRPC の ID ↑ 消費電流 (49mA)

5 なので、消費電流のデータ

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

- 温度データの回収コマンド：&00&<CR> (※ 温度センサはオプションです)

返信データ：

温度データ STN	温度データ 1	温度データ 2	...	温度データ N	チェックサム
-----------	---------	---------	-----	---------	--------

温度データ STN： %00%<CR>

温度データ： (format) (srpc_id_h) (srpc_id_l) (busy) (temp_h) (temp_l)

format：	1バイト	フォーマットコード (温度データは、6)
srpc_id_h：	1バイト	SRPC の ID (上位 8bit)
srpc_id_l：	1バイト	SRPC の ID (下位 8bit)
busy：	1バイト	0x00：成功 0x0F：ビジー
temp_h：	1バイト	温度[°C]×100 (上位 8bit) 負の値は、2の補数
temp_l：	1バイト	温度[°C]×100 (下位 8bit)

- 例) #TX<CR> : 制御コマンドの送信準備
 &00&<CR> : 温度データの回収コマンドを送信
 \$ok<CR> : 無線送信の開始

%00%<CR> ^06^08^C4^00^0B^06^FE^27

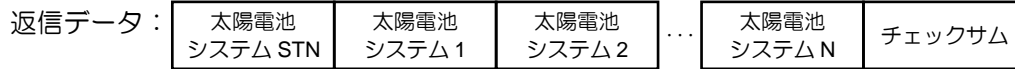
↑ SRPC の ID ↑ 温度 (28.22°C)

6 なので、温度データ

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

- 太陽電池システムの一括回収コマンド：&FF&<CR>



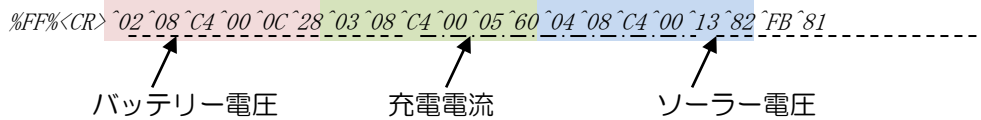
太陽電池システム STN：%FF%<CR>

太陽電池システム：

バッテリー電圧	充電電流	ソーラー電圧
---------	------	--------

バッテリー電圧と充電電流とソーラー電圧を1回のコマンドで回収できます。

- 例) #TX<CR> : 制御コマンドの送信準備
 &FF&<CR> : 太陽電池システムの回収コマンドを送信
 \$ok<CR> : 無線送信の開始



製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

● センサデータ回収 + パワーサプライの制御：

&D(seq)&<CR> 制御データ1 制御データ2 ... 制御データN

制御データ：(format) (srpc_id_h) (srpc_id_l) (length) (pwr)

format：	1バイト	フォーマットコード (SPS データは、23)
srpc_id_h：	1バイト	制御対象の SRPC の ID (上位 8bit)
srpc_id_l：	1バイト	制御対象の SRPC の ID (下位 8bit)
length：	1バイト	length 以下のデータバイト数 (1 固定)
pwr：	1バイト	0 ... パワーサプライを強制 OFF する 1 ... パワーサプライを強制 ON する

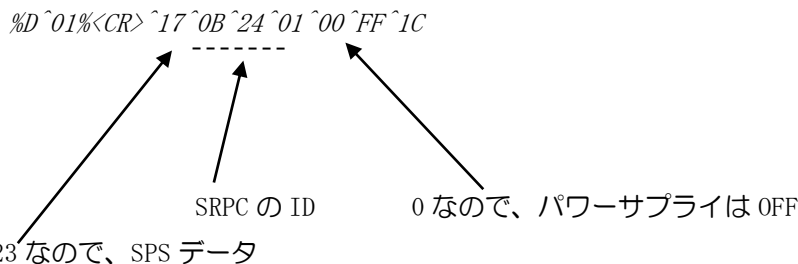
一度に複数の SRPC-SPS のパワーサプライを制御できます。

強制 ON、強制 OFF しても、オン・オフタイマーが設定されている場合には、次のオンタイマー時間もしくはオフタイマー時間で解除されます。

レスポンスは、センサデータ回収コマンドと同じになります。

例) #TX<CR>	：制御コマンドの送信準備
&D^01&<CR>^17^0B^24^01^00	：センサデータ回収コマンド + パワーサプライを強制 OFF
\$ok<CR>	：無線送信の開始

%D^01%<CR>^17^0B^24^01^00^FF^1C



23なので、SPS データ

SRPC の ID

0なので、パワーサプライはOFF

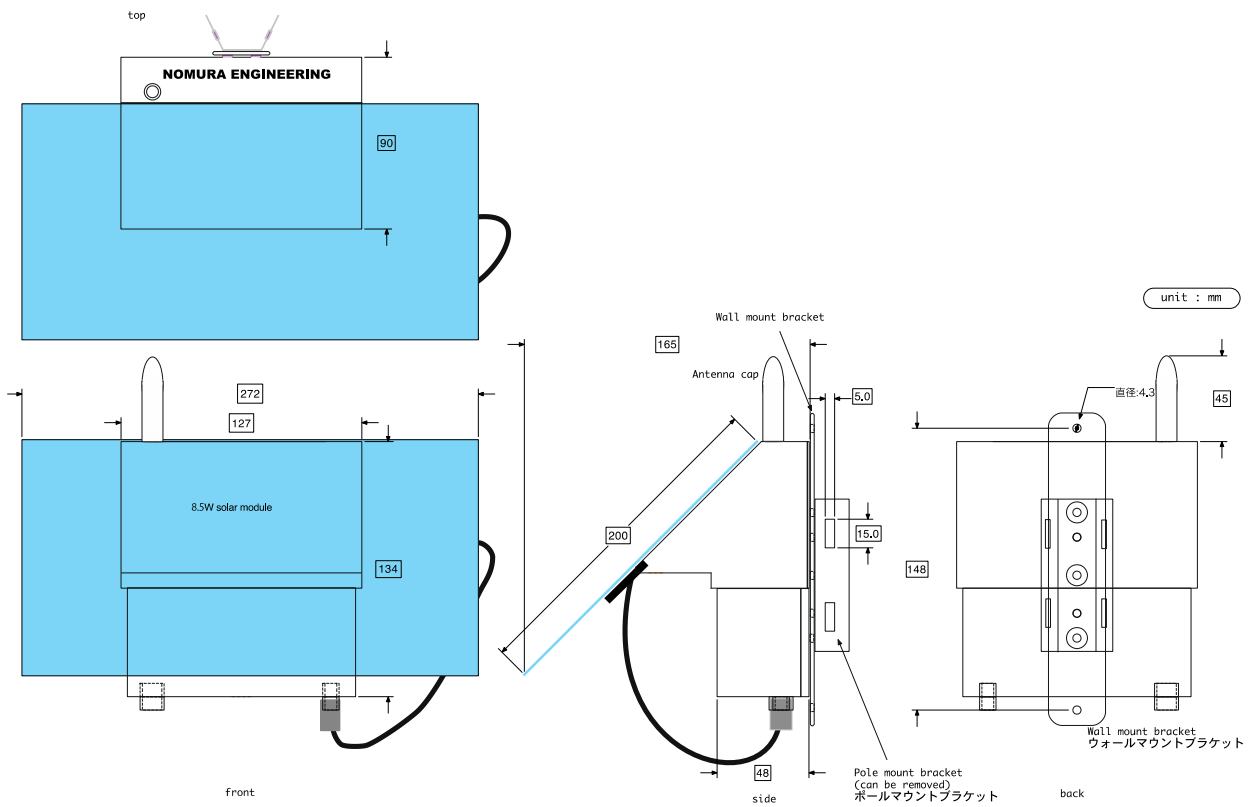
製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

外形寸法図

8.5W solar panel

SRPC 外形寸法



製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

野村エンジニアリング株式会社 <http://www.nomura-e.co.jp> e-mail: engineer@nomura-e.co.jp
 〒242-0023 神奈川県大和市渋谷1丁目7-2 TEL:046-244-0041 FAX:046-244-3551

SRPC-SPS Firmware Specifications

電波法に関する注意事項

- アンテナは取り外したり、ケースを開けて改造することは法律で禁止されていますので、絶対に行わないでください。
- 技術基準適合証明ラベルは剥がさないでください。ラベルの無いものは使用が禁止されています。
- 日本国外での電波法には準じておりませんので日本国内でご使用ください。

取扱に関する注意事項

- 高速ロジック回路やブラシモータから放射される高周波ノイズで受信の感度抑制が発生して通信距離が極端に短くなることがあります。その場合はノイズ源から受信部を遠ざけるなどの工夫をして下さい。
- 電波伝搬においてマルチパスで電波の強弱が発生しデッドポイント（ヌルポイント）が発生し、送信機を傾けただけで受信できなくなることがあります。
- 製品の故障や誤作動が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。
- 電源の逆接は機器の故障になりますので、絶対行わないで下さい。
- 強い衝撃を与えたり、水やその他の溶液に浸したりすると故障の原因となるので、絶対行わないで下さい。
- 分解して改造したりしないで下さい。
- アンテナを強く引っ張らないで下さい。
- 基板両面に小型チップ部品を多用しています。落としたりぶつけたりすると部品が剥がれたり、基板のパターンがはがれたりして製品故障の原因となりますのでご注意ください。

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。

SRPC-SPS Firmware Specifications

変更履歴

2013/10/23 Rev0.2	重量と外部電源ONタイマー機能の追記
2013/11/22 Rev0.3	オン・オフタイマー機能と訂正
2014/04/16 Rev0.4	電源の操作を追加
2014/05/23 Rev0.5	パワーサプライのカットオフを追記 太陽電池システムからエネルーブタイプを削除
2014/07/09 Rev0.6	SRPC-RPT と SRPC-RS と SRPC-SPS を統合 移転に伴い、住所を変更
2015/09/18 Rev1.1	8W パネルの追記
2016/06/21 Rev1.2	シャットダウン時の消費電流を変更
2017/05/19 Rev1.3	ON 時間、OFF 時間、パワーサプライ制御の項目を追記
2021/08/05 Rev1.4	ケーブル仕様を追記

製品の故障や誤動作が直接人命に関わるような使い方は絶対にしないで下さい。